

2018 **3/18** Sunday
14:00 - 16:45 (受付開始 13:15)

新宿区
戸塚地域センター
7F 多目的ホール
JR 高田馬場駅から徒歩 2 分
新宿区高田馬場 2-18-1

学生・収入のない方
500 円
一般
700 円

後藤浩二さん (スープの会) によるアフタートークあり
上映会の参加申し込みは裏面をご覧ください (要事前申し込み)

ハラハラ
切なく
ドキドキ
可笑しい

路上発
希望の
ドキュメンタリー
映画

painting by 園介都子



だれもが一度は見かけたことのある、 路上で生活しているひとたち。

でも、立ち止まって気にかけてたことはないでしょう。
この映画はそんな「あしがらさん」を
ひとりの若者が見つめ続けて生まれた物語です。



放り出されたいのちは、きっと何かを求めています

あしがらさんは20年以上も新宿の路上で生きてきた。残飯で飢えをしのぎ、心を閉ざして誰とも付き合わない。あるときあしがらさんの笑顔に触れた作者は「このひとをもっと知りたい」そんな気持ちでカメラを回し始める。ポツポツと語られる言葉に耳を傾け、二転三転する状況に寄り添う。3年におよぶ撮影でいつしか生まれた信頼が、思いもかけない変化をもたらす。新たな人生を歩み出したあしがらさんの姿は、私たちに微笑みと希望を与えてくれる。それは「人生とは？ 希望とは？ 人とのつながりとは？」と静かに問いかけているのかもしれない。

〈あしがらさんの言葉??〉

気がつけばいつとの付き合いが
3年も経ってやがった。
これも腐れ縁ってやつかな。
聞いたらよ、今度、オイラのことを
映画でやるんだって?
不思議な世の中になったねえ。
今、オイラがとてどうしてるかって?
それは映画を見てのお楽しみ
ってやつだ。



〈監督より〉

路上で生きるってどんな事なんだろう? どんなキモチなんだろう? そんな好奇心から通い始めて早8年が経ちました。この作品はある意味、ボクの20代の記録でもあります。路上に放り出されたいのちを、ともに見つめてください。

〈監督:飯田基晴プロフィール〉

1973年生まれ。98年より新宿でボランティアとして野宿の人々と関わる。98年よりビデオ、テレビ等で野宿者の状況を発表。長編ドキュメンタリー映画は本作が1本目。

圧巻だった。撮る側と撮られる側、両者間に一貫して流れる**愛と信頼**を感じた。

ここであからさまに描かれているのは、常に「あしがらさんと僕」だ。

「あんただけは信じるよ」という相手に、「ありがとう……。でも、いい人はいっぱいいるよ」。

撮りながら引き出されるその瞬間の自分の情動を、てらもなくさらしてしまふ。

それが飯田基晴のナイーブさであり図太さであり、底知れない未知の魅力なのだ。———**北村年子**(ルポライター)

優しさを放射しながら、「あしがらさん」はドキュメンタリーの毒もたっぷり堪能させてくれた。———**森達也**(映画監督)



- 極限の状況にありながらも生きようとする…明日を信じ続ける。そんな生き方が伝わってきたみたいです。———20代 男性
- 自分のおじいちゃんのことを考えたり、野宿者の人の見方がかわりそう。———10代 女性
- 共に生きるってすごい事だと思いました。涙が出ました。———50代 女性
- あしがらさんの一言一言に味を感じ、笑ったり…。こんな風に笑ったの久しぶりだなあ、なんてことに気づきました。———30代 女性

監督・撮影・編集・制作◎飯田基晴 音楽◎梅津和時 他 2002年制作/ビデオ/73分

配給◎「あしがらさん」上映ネットワーク:〒232-0061 神奈川県横浜市南区大岡2-5-9 Tel&Fax:045-743-9366 <http://www.5f.biglobe.ne.jp/~ashigara/>

ウェブでお申し込み:



<http://www.skill-boat.org/asgr>

メールでお申し込み:



skillboat.waseda@gmail.com

メールの場合、件名 (Subject) を「あしがらさん・参加申し込み」とし、本文に必ず①申し込みをされる方のお名前、②同行される方すべてのお名前、③参加人数の合計をご記入ください

主催: NPO 法人スキルボート | お問い合わせ: 櫻井 (skillboat.waseda@gmail.com | 090-1408-4889)

助成: 新宿区社会福祉協議会 (赤い羽根共同募金、歳末・地域たすけあい募金)